

水源林造成事業におけるクマ剥ぎ防止対策について

～栃木県における防止対策方法と観察結果～

独立行政法人森林総合研究所 森林農地整備センター
宇都宮水源林整備事務所 造林係主任 北村 智也

1 はじめに

栃木県内でツキノワグマの林業被害が年々増加しています。他に違わず、水源林造成事業地についてもツキノワグマによる樹皮剥ぎ行為（以下「クマ剥ぎ」という。）により、立木の商品価値を著しく低下させたり、果てには立木の枯損まで至るものもあります。そのような状況から、平成10年度より栃木県の水源林造成事業地において、様々な方法を用いてクマ剥ぎ防止対策を実施しております。今回、その実施した方法と経過及び問題点を報告します。



クマ剥ぎ被害状況

2 クマ剥ぎ防止対策の経過

栃木県の水源林造成事業のクマ剥ぎ防止対策として、平成10年度から平成22年度までの12年間で、「ポリプロピレン製ネット巻」・「ポリエチレン製臭い付袋巻」・「テープ巻」・「ロープ巻」の4種類のクマ剥ぎ防止方法を実施しております。

(単位:ha)

ネット巻	臭い付袋巻	テープ巻	ロープ巻	合計
494	135	164	331	1124

栃木県における水源林造成事業のクマ剥ぎ防止対策実績 (平成10年度～22年度)

4種類のクマ剥ぎ防止対策方法を評価するため、現地調査等で水源林造成事業地に赴いた際に、実施後のクマ剥ぎ被害状況や、施工したクマ剥ぎ防止対策方法がどのように変化しているか、また立木への影響についても観察しました。

3 観察結果と問題点

4種類の方法の各施工地において、周囲の山林と比較すると、クマ剥ぎ被害が少なくなっており、クマ剥ぎ防止には効果があったと思われます。

しかし、各方法とも立木に影響を与えたり、施工したものが破損したりしておりました。ポリプロピレン製ネット巻では、固定してある結束バンドが劣化で破損し、それに伴いネットが外れてしまうケースがありました。ポリエチレン製臭い付袋巻では、袋が劣化し立木から外れてしまい、林内に散らばってしまっているケースがありました。テープ巻については、テープが立木に食い込んでしまっているケースがありました。ロープ巻についても、ロープが立木に食い込んでしまっているケースがありました。

4 考察・まとめ

各方法ともクマ剥ぎ被害防止には一定の効果があることがわかりましたが、立木に影響を与えていることや、施工したものが破損等しており、クマ剥ぎ被害防止効果が期待できないものがありました。

今回は、プロット等を設置した科学的な調査及び評価を実施しておりません。今後は科学的な調査手法を検討し、継続的にクマ剥ぎ被害防止対策の各方法の評価を実施したいと思います。